

1. 坂本九の記念碑を紹介します 丸山 隆男

来年の定演の演奏曲に坂本九が歌った「上を向いて歩こう」がありますが、今回はそれにちなんだ坂本九の記念碑について簡単に紹介させていただきます。

J R川崎駅中央改札（北口と南口がありますが同じ中央広場に出ます）を出て、中央東口へ向かって歩き階段又はエスカレーターを降ります。階段を降り終わったら右方向のタクシー乗り場の近くに、ライオンズクラブが建立したその記念碑があります。（タクシー乗り場は左方向にもありますので間違えないように！）

高さは私の身長よりちょっと高く 180 c m くらいの高さです。（写真参照）



記念碑には坂本九の誕生から始まって、「上を向いて歩こう」の世界的大ヒットのことが書かれています。

余計なことを言うより、その記念碑に書かれている文章をそのまま紹介します。

また同時に「上を向いて歩こう」の歌詞も紹介しています。

坂本九/Kyu Sakamoto (1941.12.10~1985.8.12)

昭和 16 (1941) 年 12 月 10 日九人兄弟の末っ子として川崎市で誕生。エルビス・プレスリーに憧れて歌手を志し、昭和 36 (1961) 年に歌った「上を向いて歩こう」（作詞 永六輔；作・編曲 中村八大）が大ヒット。

後に「SUKIYAKI」と題し、世界中で発売され、昭和 38 (1963) 年には、米音楽誌ビルボードのシングルチャートで 3 週連続 1 位を獲得、アメリカのみならず世界中で大ヒットを記録し、ゴールデンレコードを授与される。これは日本の歌が初めて世界的ミリオンセラーになった快挙である。

「九ちゃん」の愛称で歌手、俳優、司会者として日本を代表するエンターティナーとして活躍する中、「歩みの

箱」、札幌テレビの福祉番組「サンデー九」、手話から生まれた歌「そして思い出」を発表するなど福祉活動にも積極的に尽力した。

子供から年寄りまでに親しまれた昭和を代表する国民的な大スターである。

代表曲；「上を向いて歩こう」「見上げてごらん夜の星を」「明日があるさ」「幸せなら手をたたこう」「レットキス（ジェンカ）」「涙くんさよなら」「ともだち」「心の瞳」

（追記）

ご存知のように九ちゃんは 1985 年 8 月 12 日に群馬県御巢鷹山に墜落した、日本航空 123 便墜落事故で亡くなりました。乗客乗員 524 名のうち 520 名が亡くなられ生存者は 4 名という痛ましい事故でした。もう 36 年も前のこととなります。

2. 大町桂月さんのこと 山路 永司

創業者・初代キャプテンの大町正人さんの（直系ではないけれど）ご先祖さまに、明治の文人・大町桂月（おおまち・けいげつ、1869-1925）がいらっしゃるのは、古いメンバーはご存じと思います。高知生まれで「月の名所は桂浜」から取った号で、本名は芳衛（よしえ）。

15 年ほど前から 7-8 年間、青森県十和田市に年数回出かけていましたが、時間があるときに、名湯・葛温泉にも寄りました。湯気で向こうの壁も見えないくらい広い浴槽は、ヒノキ風呂だったように思う。そこには、葛温泉を世に広めた貢献者として、大町桂月の像があります。数年前には、大町桂月記念館もでき、いろいろな資料が展示してありました。温泉入口の目立つところにある像とは、一度ツーショットを撮ったのですが、どこかへ行っちゃいました。

3 年前の秋、勤めていた柏キャンパスの学生実習で、手賀沼南岸の柏市鷺野谷地区に行きました。そこには、



手賀村初代村長、染谷大太郎さんのお屋敷が。柏市景観重要建築物第1号の染谷家長屋門、のちに国の登録有形文化財となった8棟の建物があり、歴史を感じます。当主染谷文雄さんの計らいで、中も見せて貰いましたが、鴨居に大町桂月の扁額、書架には、大町桂月全集・全12巻。「桂月さんのファンなんですか」と聞いたところ、

「母が桂月の娘さん」という。その頃、手賀沼南岸は湿地帯で道はなく、鷺野谷地区の農家は、自分の船で北岸



に渡り我孫子駅から国鉄で日暮里上野方面に野菜を売

りにいったと。いまもトラックで出荷する農家が数軒あるとのこと。他の村から嫁いでくる花嫁さんは、我孫子側で花嫁衣装になって、船でやってきたそうで、そういう写真も残ってました。

その結婚式に、大町桂月は、日本のどこかを放浪していたらしく、染谷家に来たのは、1か月後だったと文雄さん。訪問後に来た礼状の文章が柏市報に載ってました。それについて、「手賀沼を渡り鷺野谷の染谷家に向かうまでの景色や、豊かな自然と歴史に包まれた人情味あふれる鷺野谷村の雰囲気、桂月独特の美文で綴られています」(市報 No.1513)。この独特の表現を、芥川龍之介は「淡々たる事白湯の如し」(同)と評したとも。

旅と酒を愛した文人「大町桂月」。そして、歌と海と酒を愛した、われらの大町正人初代キャプテン。いろんなご縁を感じました。

3. ある日のお遍路日記(その2) 山路 永司

四万十川の歌(Oh, Shi-man-to)は、Newsletter No.246に書きましたが、その前日の話。

高知県は広いので、東から西まで390km。4回目の高知入りのとき、駅で見つけました。日本酒「桂月」。色々な種類が置いてあって、びっくり。一番高そうなのを買って、揚げ物とともに列車内へ。歩き始める前だから、そんな飲んじゃいかんけど、持っている荷物になるので、せっせと飲みました。うまかったー。



4. ハワイ語は難しい

山路 永司

11月9日(火)の練習で、Aloha Oeの歌詞を2箇所変更しました(変更内容は同じ)。この変更は、歌いやすくしてお客様に理解して貰うため、大町キャプテンが考えたもの。これはこう決めたものだから、これで良い。

引かかったのは、28小節目の「E」の発音。ローマ字読みだと「エ」に近い音だろうが、ネイティブは「イ」に近い音を出していることを、倪さんがYouTubeで発見。で、そのように歌うと決まった。しかし自分は単純に納得できないし、川島さんは「ハワイ語はもともと文字がないのだから、おかしいのではないか」と理詰めで不思議がる。川島さんの見つけた「ハワイ語発音ガイド」やネット上のいろいろな歌い方を聞いてみました。結果、私の意見は次の通りです。「日本語のイでもエでもなく、ハワイ語のEに近い音で歌う。」

見たサイトのひとつは、Dr. Jennifer D. Smallという大気科学者(ハワイ大学准教授)の「島嶼気象学」の講義要目のページ。2020年春学期(1月~5月)の講義は、50分間の講義が週2回、35回の座学と10回の演習をやって、最後に発表会。アメリカの大学では(本来は日本の大学でも)予習が必須で、毎回「気象学」の文献と「ハワイ語ネイティブ」を読んでおかないと授業に付いていけない。演習には、島人の衣装、ハワイ音楽、航海術などがあり、とても楽しそう。

4月13日は「Hawaiian Climate Types」という講義で、普通の気象学の講義に加え「Aloha Oe」を学ぶ!! Queen Liliuokalaniが1878年に書いた歌詞と、2013年にカリフォルニア大学サンディエゴ校のImada准教授の書いた「Aloha Oe」に関する学術論文を学ぶのだ。やっぱり本場は本場と納得しました。(右は、ホノルルにある女王の像、Imadaの論文より)

